

ぶらっと山歩（さんぽ）

背山の歴史に消えた道・・・塚本道

文と写真：吉野 宏 会長

本年も早や2ヶ月半を残すのみとなった。月の初めから師走半ばまで、超多忙な日が続く。毎年のことではあるが、今年は特に忙しい！
全てをこなすための頭の回転と、体力気力が最後まで持ちこたえてくれるだろうか？・・・
不安と焦りを紛らわす立ち飲み回数が増えるのだけは間違いないだろうな～・・・。

10月第3週目の月曜日、久しぶりに時間が空いたので、布引から再度山周辺を、ぶらっと山歩することにした。大龍寺山門下の善太郎茶屋跡に建てたヒヨコ発祥の地の案内板も、その後建てられた立派な登山路案内板と相まって、静かにその役目を果たしてくれているようであった。



在りし日の善助茶屋（岳連資料より）

この付近へ来ると近代登山に影響を与えて来た外国人や日本人など毎日登山の魁（さきがけ）を作った往時の人々のムンムンする様な気配が感じられ、僅かなりとも身体が活気づくような気がする。在りし日の善助茶屋では登山の先人たちはどんな楽しい語らいをしていたのであろうか・・・
すぐ近くには塚本永堯氏が立ち上げた初めての登山会・神戸草鞋会（後に神戸徒歩会（KWS）と改名）のコーテージが有り、ここでも山の同志達が集ったであろう。・・・そんなことを思いながら発祥記念碑の前に立ち、ふと思ったのが「塚本

道の由来石」のことであった。



神戸徒歩会会員用に作成された市背山路地図
（推定大正2年頃に作成）

ヒヨコに入会した昭和50年代に塚本道の名は聞いてはいたが詳しく知る由もなく、その歴史や由来石のことは、阪神淡路大震災後に親しくなった神戸市職員であった今は亡き高橋敬三氏からいろいろ教えていただいた。



塚本道由来石碑のある場所への登り道

「・・・何分にも当時の背山に整備された道らしき道は無かった。結果、塚本永堯氏が中心となり、巨額のお金を投資し再度山を事細かく開拓・整備し管理までしてくれていた。その時に初めて手掛けた道が塚本道と名付けられた登山道であ

った。しかし、この道も再度山ドライブウエーの開発などで寸断され、その道は想像するしかない。只、あったことは事実で、その名残の「塚本道由来碑」のある場所へ案内しましょう」と言って連れて行ってもらったのが最初であった。それから何回となく訪れて、この石碑の横で腰を下ろし、当時の事を想像するのが大変楽しい時間であったことを思い出しくしぶりに訪ねてみたのである。



意外としっかりした石碑



手を広げたような石碑



北東面から写したもの



塚本道之碑と刻まれた正面

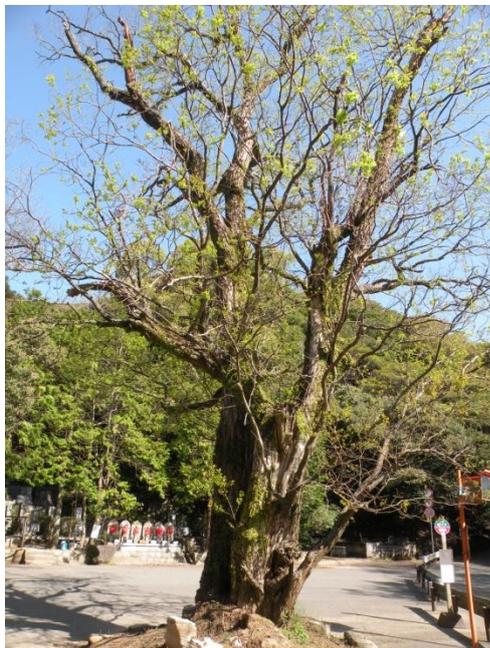


大正六年十一月・神戸徒歩會と刻まれている



裏面

写真を大写して掲載させていただいたが、肝心の塚本道の起点がどこで、終点は何処？・・なのか、神戸徒歩会会員用（推定大正 2 年頃～7 年頃）に作成された神戸市背山路図を拡大してよく見てもわからない。・・あくまでも想像だが・・・



山門前にあるマルバヤナギの古木

起点だろうと思われる見張小屋のあったあたりから蛇ヶ谷を下り、布袋谷に突き当たって現在の大龍寺の玄関口である赤門付近からドライブウェイに沿って下り、二本松道を横切って猩々池の手前から大師道へと抜けていたのでは？・・と想像する。

101 年の時を経て、今なおかくしゃくとして再度山を見守っている塚本道の由来石碑・・。はたして想像しておられたようになっているでしょうか？

.....

大正 6 年に建てられた神戸徒歩会による塚本道の石碑。

大正 8 年に浜坂から神戸に出てきて山にのめりこんでいった加藤文太郎。

そして、大正 11 年 10 月、我々のヒヨコの誕生である。

そんな時代のヒーローやスーパーな出来事をつなぎ合わせ、神戸の背山から兵庫の山々、はた

また日本アルプス・・いや、いや、ネパールの山々・・。と、思いを想像するだけで随分と心が和らいた「ぶらっと山歩」であった。

帰りは元町で気持ちよく立ち飲めた！・・ことを記しておきます。

平成 30 年 10 月